

# 合田邸通信 vol.11

令和6年11月26日

「えじぷとの間」の第2次保全工事及び調査を開始して4か月目になりました。

10月～11月の主な作業内容も引き続き各階の部材や屋根部の垂木なども記録し取り外していく作業を実施し、現在はほぼ建物の骨組みだけの状態になりました。以前にも紹介したように屋根に水平及び鉛直の筋交いを加えることで耐震の効果を付与していることを紹介しましたが、それ以降の調査の中で、壁の中の筋交いや手すりや欄間にボルト(ここでは棒状の長いネジ)が通し補強など耐震性が増す様々な仕掛けを発見することができ、建築当初から耐震における様々な手立てを行っていたのではないかと考えられます。

また現状において、建屋の耐震性や今後の復元における補強など、どのようにしていくかを様々な専門家に聞く会議をWEB会議で実施し、様々な意見をいただきました。



建物の骨組み



手すりの下のボルト補強



専門家の意見を聞くWEB会議

